

～震災復興支援～

にっぽん文楽

Nippon Bunraku
in 熊本城

飲みながら 食べながら 文楽
本格的な組立舞台と清正公が熊本城に登場



「八陣守護城」 浪花入江の段

竹本津駒太夫、鶴澤清介、吉田幸助 ほか

野澤松之輔 作詞・作曲 藤間勘寿朗 振付

「面売り」

豊竹呂勢太夫、鶴澤藤蔵、吉田勘彌 ほか

総合プロデューサー…中村雅之



2018年3月17日(土)～20日(火)

[昼の部] 開場12:00 開演13:00

[夜の部 (17日・18日)] 開場16:00 開演17:00

[夜の部 (19日・20日)] 開場17:00 開演18:00

※荒天時は中止となります。中止のご案内は、にっぽん文楽ホームページ (<http://www.nipponbunraku.com/>) でお知らせします。

小雨決行ですが、傘は使用できませんので、防寒具、レインコート等を各自でご準備ください。

※公演中止時は、舞台見学会および人形との記念撮影会を無料にて開催いたします。(各開場時間より90分間)

※二の丸駐車場 午前8時～午後8時半(最終入庫午後7時半) 台数に限りがありますので可能な限り、公共交通機関をご利用ください。

※会場は屋外のため、寒暖対策には十分ご注意ください。 ※会場内での飲食および持ち込みは自由です。

会場：熊本城 二の丸広場

チケット料金：2,000円(全席自由) チケット発売：2月1日より

チケット取扱：チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード：483310)

ローソンチケット 0570-084-008 (Lコード：81318)

お問合せ：にっぽん文楽プロジェクト (TEL03-6233-8948、平日10:00～17:00 <http://www.nipponbunraku.com>)

写真：青木信二

主催：日本財団、一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト、熊本市(お城まつり運営委員会)

制作：一般財団法人にっぽん文楽プロジェクト 制作協力：公益財団法人 文楽協会

特別協力：熊本県 協力：独立行政法人 日本芸術文化振興会、北西酒造

熊本に元気のタネを蒔く

総合プロデューサー 中村雅之 (横浜能楽堂館長 / 明治大学大学院兼任講師)

あの震災から2018年4月で丸2年。それを前に、震災復興支援を掲げ、熊本城を背景に「にっぽん文楽」を開催します。2015年から始まった「にっぽん文楽」は、国内・外の多くの人たちに、「日本のタカラ」である「文楽」の価値を知ってもらおう、と立ち上げられたプロジェクトですが、もう一つの目的は、移動自由の組立て式舞台を日本全国に持って行き、日本中に元気のタネを蒔いて回ろうというもの。今回は、東京・上野に続く6回目の開催となります。

舞台は、銘木の産地・吉野から切り出された檜をふんだんに使った本格的な「建物」です。さらに金の飾り金具が、豪華さを演出しています。木綿のまん幕には、伝統的な染めの技術で「にっぽん文楽」の紋が染め抜かれています。

出演者は、「太夫」の竹本津駒太夫、「三味線」の鶴澤清介、「人形」の吉田勘彌、4月に五代吉田玉助を襲名する吉田幸助ら一線で活躍する顔ぶれ。

演目は、熊本ということで特別に加藤清正の忠義を描いた「八陣守護城」を選びました。めったに上演されることのない作品です。愉快な舞踊物「面売り」も合わせて上演します。

「にっぽん文楽」のコンセプトは、この本格的な文楽公演を飲みながら食べながら、ゆっくりと楽しんでもらう、というもの。ほかの文楽公演ではあり得ない、掟破りのプロジェクトです。会場内では、埼玉・上尾で、百数十年にわたり酒造りを続ける「北西酒造」より、限定ラベルの日本酒「にっぽん文楽」を販売します。

震災復興は、道半ばですが、ひと時、手を休めて文楽を楽しんでいただければ幸いです。一日も早い完全復興を願ってやみません。

演目・出演

はちじん しゅごのほんじょう 「八陣守護城」 なにおわりえのだん 浪花入江の段

太 夫 / 正清: 竹本津駒太夫、雛絹: 豊竹希太夫、鞠川・早淵: 竹本津國太夫
三味線 / 鶴澤清介、琴: 鶴澤清公
人 形 / 早淵久馬: 桐竹勘次郎、加藤肥多守正清: 吉田幸助、
娘雛絹: 吉田一輔、鞠川玄蕃: 桐竹勘次郎
船頭: 大ぜい、近習: 大ぜい、忍び: 大ぜい

めんうり 「面売り」 野澤松之輔=作詞・作曲 藤間勘寿朗=振付

太 夫 / 面売り: 豊竹呂勢太夫、案山子: 豊竹芳穂太夫、ツレ: 豊竹希太夫
三味線 / 鶴澤藤蔵、鶴澤寛太郎、鶴澤清公、鶴澤清允
人 形 / おしゃべり案山子: 吉田簀一郎、面売り娘: 吉田勘彌

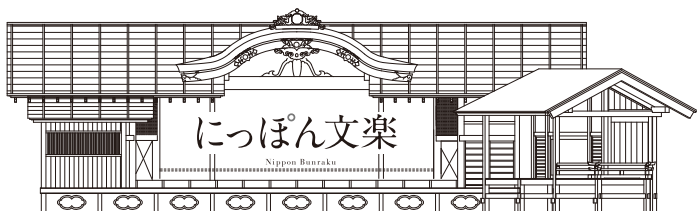
「解説」

太 夫: 豊竹芳穂太夫 / 三味線: 鶴澤寛太郎 / 人 形: 桐竹紋臣

人形部: 吉田玉勢、吉田簀之、吉田簀悠、吉田玉征
囃 子: 望月大明藏社中

※内容・出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください

総合プロデューサー: 中村雅之
アシスタントプロデューサー: 榎本かおり (BOX4628) / アドバイザー: 宮本芳彦 (宮本卯之助商店)
グラフィックデザイン: みやはらたかお
舞台監督: 山添寿人 / 舞台機構・大道具: 関西舞台 / 音響・照明: ビーエーシーウエスト
運営ディレクター: 原昇 / 運営: ミューズメントワークス
建築設計・監理: 田野倉建築事務所 / 構造設計・監理: 福山弘構造デザイン
組立施工: 菜の実建築工房 / 幔幕製作・施工: 宮本卯之助商店



演目解説

「八陣守護城 浪花入江の段」

加藤清正が、秀吉死後も豊臣家に忠義を尽くし、徳川方に毒殺されたという俗説に基づいて作られた。幼君の身代わりに毒を飲みほした清正。毒が回ったことを徳川方に悟られぬよう居城へ戻り、死期を悟りながらも、主家の安泰を祈る清正の姿を描く。江戸時代に作られた作品であるため、幕府を憚り、それぞれの役名は他に置き換えられている。

先君の死で、幼君・春若 (豊臣秀頼) が残され、力を増していた北条時政 (徳川家康) は、権力を我がものにしようとする春若の毒殺の謀略を企てる。その動きに気付いた先君からの忠臣・加藤正清 (加藤清正) は、春若の代わりに毒を受けながらも、決然と居城がある国元へと旅立つ。

〈今回上演される「浪花入江の段」は、この後から始まる〉。

舞台は清正の御座船の上。清正の息子・主計之介の許嫁である雛絹を居城へ連れ帰るため、共に船に乗っている。

清正の様子を探りに時政の家臣・早淵久馬が船を訪れる。しかし、毒を飲んでる筈の清正が元気なことに驚いて帰る。代わって、時政の使者・鞠川玄蕃が現れ、餞別として「鎧櫃」を置いていく。玄蕃が去った後、「鎧櫃」の中から鉄砲を持った忍びの者が飛び出し、清正を襲う。毒が回って来た清正だったが、見事に忍びの者を切り捨てる。清正は、何事も無かったかのように、船子たちの「清めの舟歌」を聞きながら船出していく。

「面売り」

江戸時代、様々な芸人や物売りが行き来し、街中は賑やかだった。その情景を彷彿とさせる小品。文楽では「景事」と呼ばれる舞踊物の一つだ。

面白可笑しく言葉を並べ立てる「おしゃべり案山子」と言う大道芸人の男と「面売り」の娘が登場する。面売りは、おしゃべり案山子と一緒に商売をしようと思っかけられ、話に乗る。「ひょっとこ」「おかめ」……、おしゃべり案山子は、次々と面を取り出し、口上を述べながら売る稽古を始める。やがて二人は、息の合った掛けあいを始め踊り出すのだった。

